

そもそも啓蒙とは

「無知なる人に正しい知識を与えて教え導く」という意
ある意味で少し上から目線だと考えることもできる

カント的啓蒙思想 ドイツ観念論 形而上学への批判

未成年状態からの脱却 そのためには対象を論理的に理解する能力(悟性)の獲得が必要

福澤的啓蒙思想 イギリス、アメリカ的功利、自由、努力主義の肯定

『一身独立して一国となす』

概括するならば 一般民衆が各々で実学を修めることで国家の独立が成せる

逆説的に言えば 一般民衆それぞれが自己を律して実学を学び、西洋の文明を取り入れて国家を盛り立てなければその独立は保てない

啓蒙思想が流行した18世紀ヨーロッパは文明技術の革新的進歩と封建制度の崩壊

この時代の荒波の中で発展した啓蒙思想は福澤的啓蒙思想がそうであるように
進歩主義と中世的封建制度と価値観の批判という要素を内包している

「学問のすすめ」の文中でも

幕藩体制における封建制度 生まれながらの階級社会 和漢の古い学問

これらに対する批判は繰り返されている

学問のすすめの冒頭には有名な一文がある

『天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず』

カント的に言うならば、天は全て同じ状態の未成年状態の子供を創造する。福澤が言うには賢い愚か関係なく未成年状態は教育によって、悟性を獲得することで脱出できるはずであり、学ぶか学ばないかは自由であるが故に、悟性を獲得できないと言うのは自らが悪い。

要約するとこんなところであろう。

学びを得ること自体が難しいと言う状態が自然発生するとしても、天の匙加減は存在せず人間は元来平等な権利を得ているとして努力主義を推進することは正しいのだろうか。

近代啓蒙思想が行き着く先

近代啓蒙思想はカントのようにの自己を律しすることで完結できるようなものではなく、百科全書派が含んでいた革命的思想を受け継いでおり、自らを律するというものではなくて古い価値観の排斥と常に文明が進歩する必要があるという使命感に駆られているようである。

現代で啓蒙思想を表現しようとするとき後者の意味と対象を理解せずに学問による知識の吸収が全てであり、努力をする自分が正しいと言う歪んだ思想を持つこととなる。その産物として、生まれてしまうのが小馬鹿にされる意識高い系と呼ばれるような人々である。

私がカントと福澤を比較したのは福澤の根底には米英の影響を受けた功利主義が流れており、その対立的思想である義務論を提唱したカントを比較することでお互いの利点欠点が発見することができると思ったから。

自己を律するという事は自己の中で悟性を獲得することであり、学問自体がその1つの手段でしかないと言う点が欠落しているのではないかと言うことを学問のすすめを読んで考えた。